

【教育長賞】おいしい!!イカフライのレモン煮

祥南小学校 稲垣 璃音

ぼくは、小さいころからイカやタコ、貝類のにおいや味が苦手ですと食べることができませんでした。

幼稚園のときや二年生までは、給食でイカやタコがでると残したり減らしたり、鼻をつまんでにおいや味を感じないように頑張っていました。

しかし、三年生になったある日、イカフライのレモン煮が給食に出て、いつものように鼻をつまんで食べていた時、たまたま鼻をつまんでいた手をはなしてみると、

「あれっ?おいしい!!」  
とびっくりしました。

今までイカをおいしいと思ったことが一度もなかったので、おいしいと感じたことにとってもおどろきました。家に帰ってから母にイカフライのレモン煮を食べておいしかったことを伝えると、母はうれしそうに全部食べたことをほめてくれました。

そして、そのあと母がイカフライのレモン煮のレシピを参考にして家で作ってくれました。作りたてのイカフライのレモン煮はやっぱりおいしかったです。

あんなに苦手だったイカをおいしいと思つて食べるのができてとてもうれしかったです。

ぼくたちが食べている給食は、毎日給食の調理員の方たちが一生懸命子どもたちのために、いろいろなメニューを工夫しながら作ってくださいている

ことを母から聞いて、今まで苦手だから残したり、減らしたりしていたことを反省しました。

六年生になった今でも、タコや貝類、イカフライのレモン煮以外のイカ料理は苦手ですが、毎月新しいメニューを考案したり、栄養豊富でおいしい給食を作ってくださいる給食の調理員さんにはとても感謝しています。

ぼくは、イカフライのレモン煮のおかげではじめてイカをおいしいと思うことができました。

苦手な食材でも調理の仕方や工夫しだいで食べやすくなったり、おいしくなることがたくさんあるので、これからは給食を最後まで残さず食べたいです。

いま苦手な食べ物があつて残したり減らしたりしている友達にも、調理の仕方やメニューによってはおいしく食べることができるので、みんなで食べ物を大切にすることを意識していきたいと思えます。

そして、はいきされてしまう食品を今後環境のために少しでも減らしていけるようにしたいです。